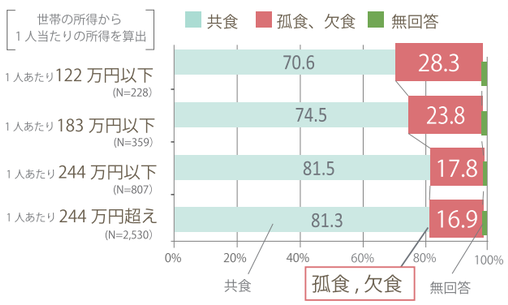
見えない境界線をぼかす

ー千種区高見学区を事例に子供を主体とした居場所の提案ー

1 愛知県の子どもの貧困率は 11 人に 1 人

日本の子どもの貧困率は 13.5%と 7 人に 1 人、先進国の中でも 10 番目に高い。子どもの貧困は、子どもの学力低下、不規則な食生活、栄養摂取の偏りを引き起こす原因になる。また、子ども食堂が増えている一方で、支援する人が足りていないことや資金不足などにより、継続的な運営が難しいことが明らかになっている。

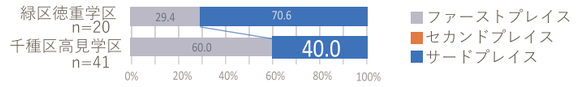


出典　愛知県「子どもの貧困対策検討会議」,「愛知子ども調査分析結果報告書」, 平成３０年３月
内閣府「平成 28 年度 子供の貧困に関する新たな指標の開発に向けた調査研究 報告書 」
日本財団 , 子どもの貧困の社会的損失推計レポート , 2015 年 12 月

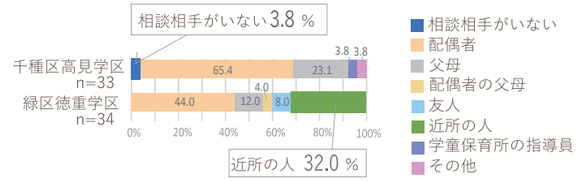
2 課題を多く抱える千種区高見学区

千種区高見学区ではサードプレイスを楽しい居場所と認識している子どもの割合が低いこと、緑区徳重学区では近所の人に悩み相談している一方で千種区高見学区では身近な人に限られており、相談相手がいないひとが 3.8%いることが明らかになった。よって、課題解決のため千種区高見学区を選定しました。

千種区高見学区の子どもはサードプレイスを楽しい居場所と認識している割合が低い

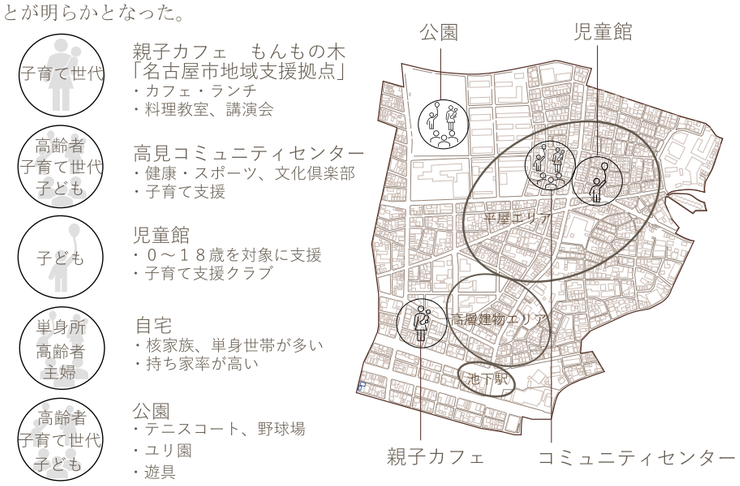


千種区高見学区の子育て世代は相談相手がいないひとが 3.8%いる



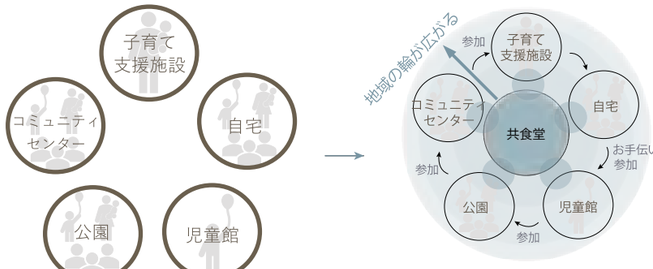
3 種区高見学区は繋がりが希薄

人口密度の割合が高く都市型地区施設が充実している一方で、世代間交流が少ないこと、また、千種児童館の職員へのヒアリングの結果、人手不足で困っていることが明らかとなった。



4 見えない境界線が潜む

千種区高見学区は、単身世帯や核家族が増えた都会であり見えない境界線により隣同士が関わり合わない、施設の活動がその場で完結していることが明らかになった。その見えない境界線をぼかし、繋がりの輪を広めることで、子どもの成長を見守りながら、途切れことのない共に成長できる空間を設計提案する。よって、目的を以下の２つにする。
(1) 子どもと子どもに関わる人々が経済格差によらず、成長できる機会を得るための空間提案
(2) スタッフ不足を解消するために地域の人々が子育てに関わり合い、永続的に居場所の運営をできる環境づくり

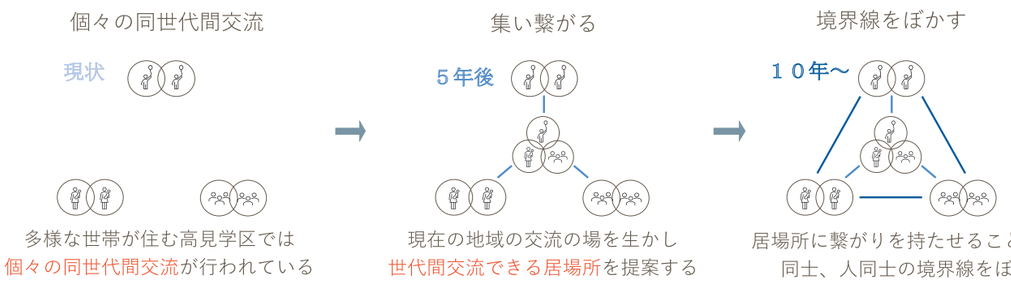


5 利用者も運営者

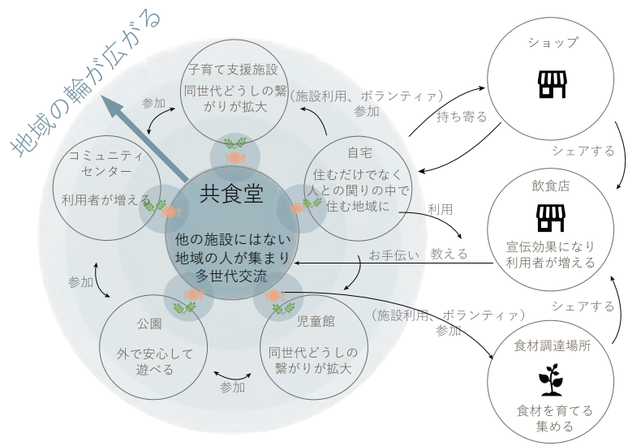
課題解決には、子どもへの支援だけでなく、子育て世代の負担を減らすこと、子どもと子どもを取り巻く環境を改善することが必要である。よって、ターゲットを子ども、子育て世代、高齢者、居場所を必要としている地域の人とする。

訪問者	子ども	高齢者、単身世代 学生	子育て世代	ボランティア	高齢者	地域の単身世帯、学生

6 経年変化

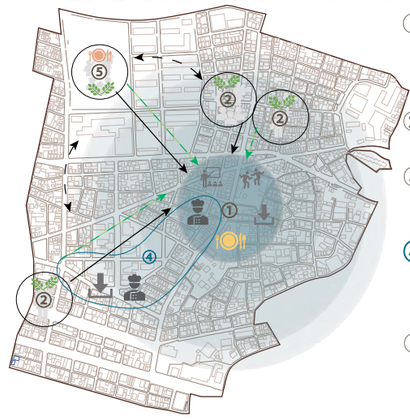


7 地元の人と飲食店が運営



- 食料を作る
- 人が交わって食べる場所を拡散
- それぞれの施設に庭を設けるなどして、食べる場所と畑を共有

8 運営方法を地図に落とし込む



① 共食堂
料理する　教える、教わる
食べる　体験する
持ち寄る、交換、渡す

② コミュニティ施設
既存の機能

③ 自宅
食料を作る
持ち寄る

④ 飲食店
料理する
（シェフが日替わり出張ボランティア）

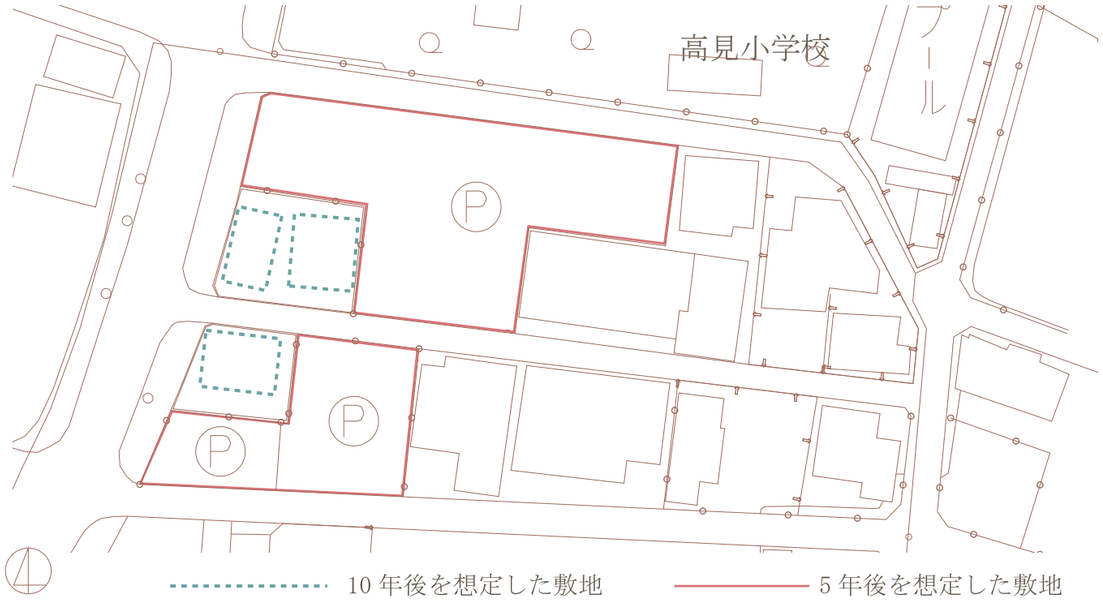
⑤ 公園・有志の庭
人が交わって食べる場所を拡散
食料を作る

モノの流れ
人の流れ（参加①）
人の流れ（参加②）

人が交わって食べる場所を拡散
食料を作る
料理する
食べる

9 時間の流れと共に周囲を巻き込む

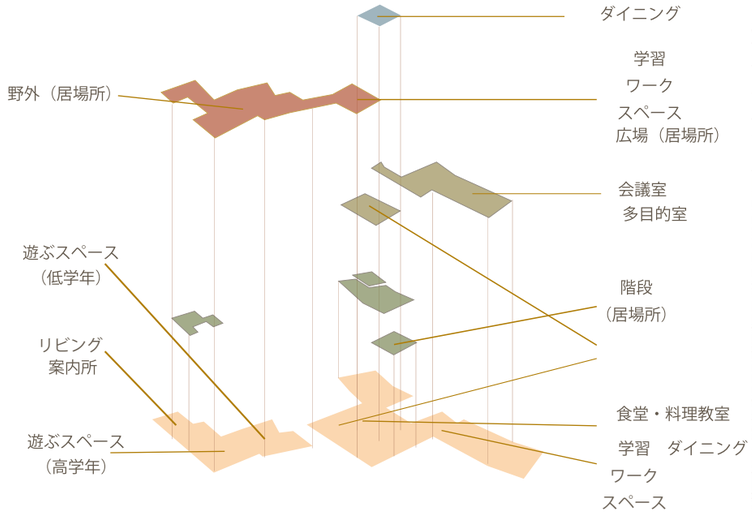
北側には小学校があり、周辺の建物は平屋、マンションが立ち並んでいる



10 年後を想定した敷地　　5 年後を想定した敷地

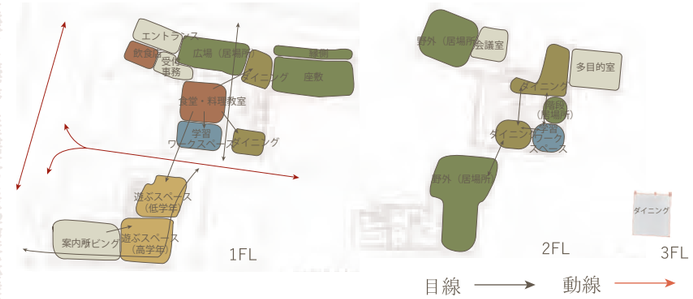
10 建物のダイアグラム

境界線となる壁をなくし、床のレベルを変化させスペースわけをすることで、人の気配を感じ、居間にいるような空間にします



11 ゾーニング

1 FL には食堂を中心にその他の機能を取り入れました
2 FL は、自由に活用できるスペースを配置しました

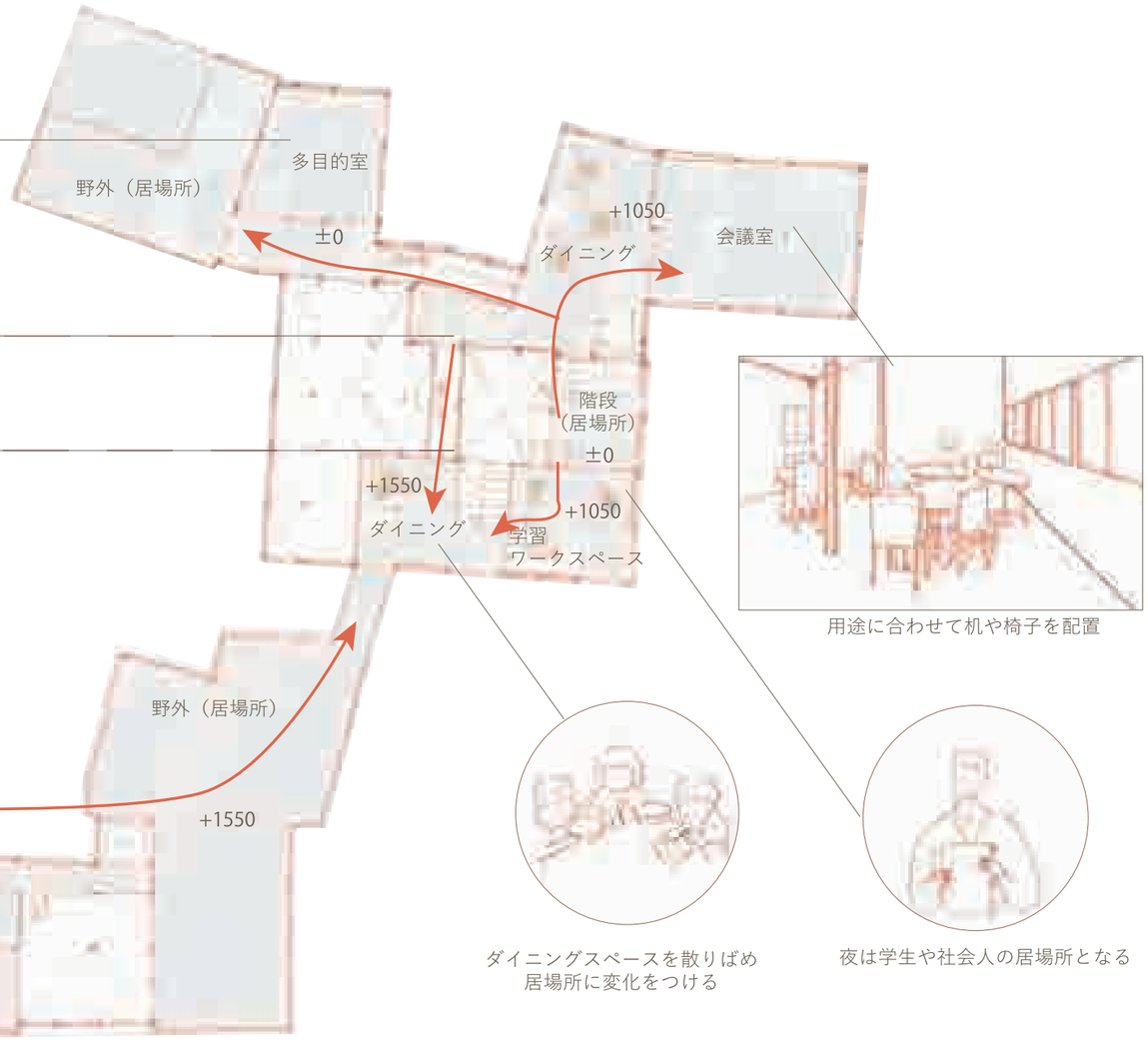


階段や様々な形の椅子を配置し居場所を選択する空間

低学年が遊ぶスペース

高学年が遊ぶスペース

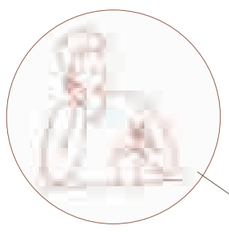
クラブを作りモノづくりを体験できる



平面図 3 FL　1/150

平面図 2 FL　1/150

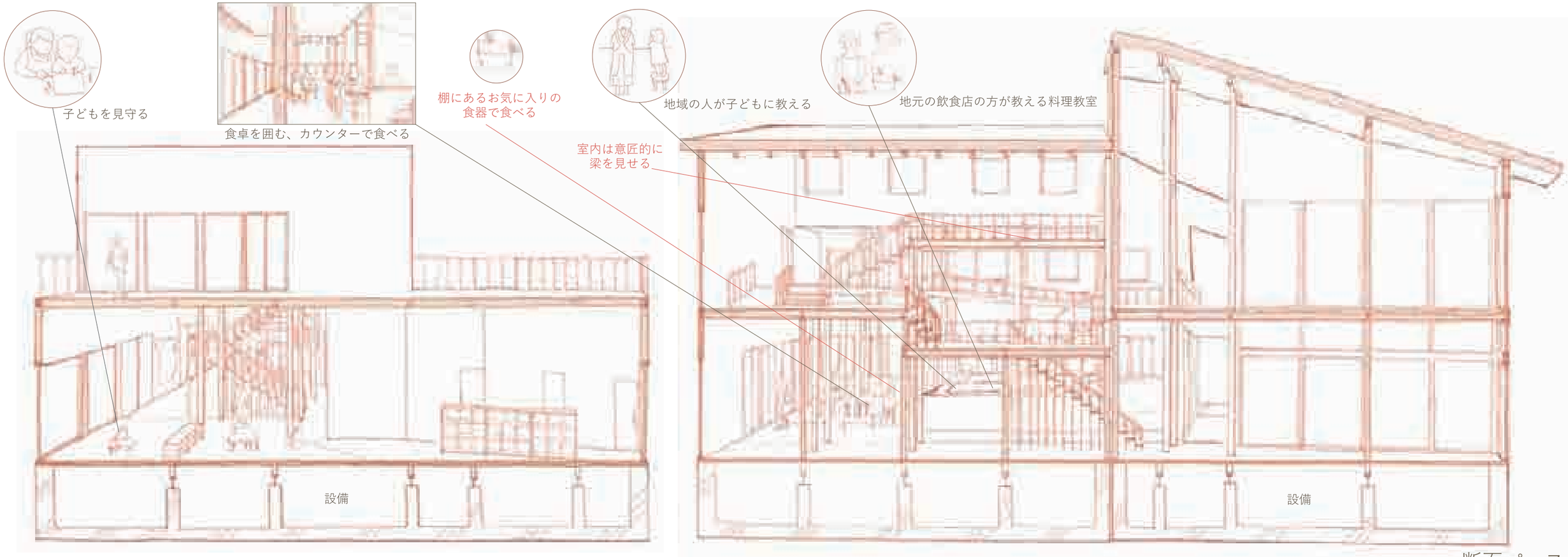
用途に合わせて机や椅子を配置



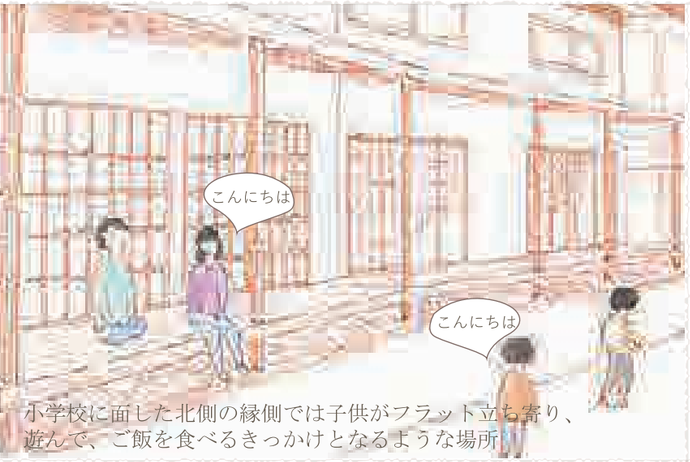
外でくつろぐ

ダイニングスペースを散りばめ
居場所に変化をつける

夜は学生や社会人の居場所となる



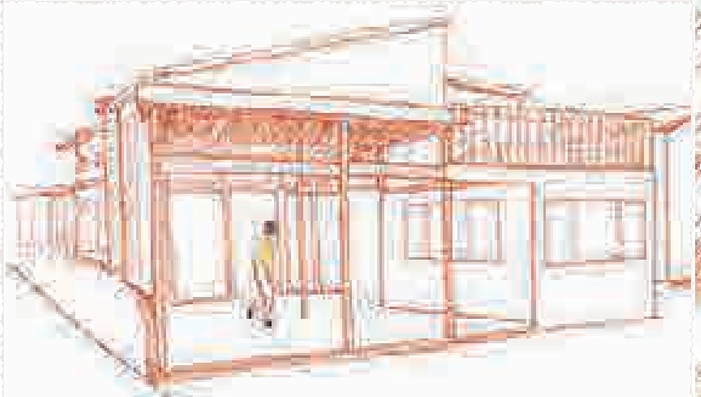
断面パース



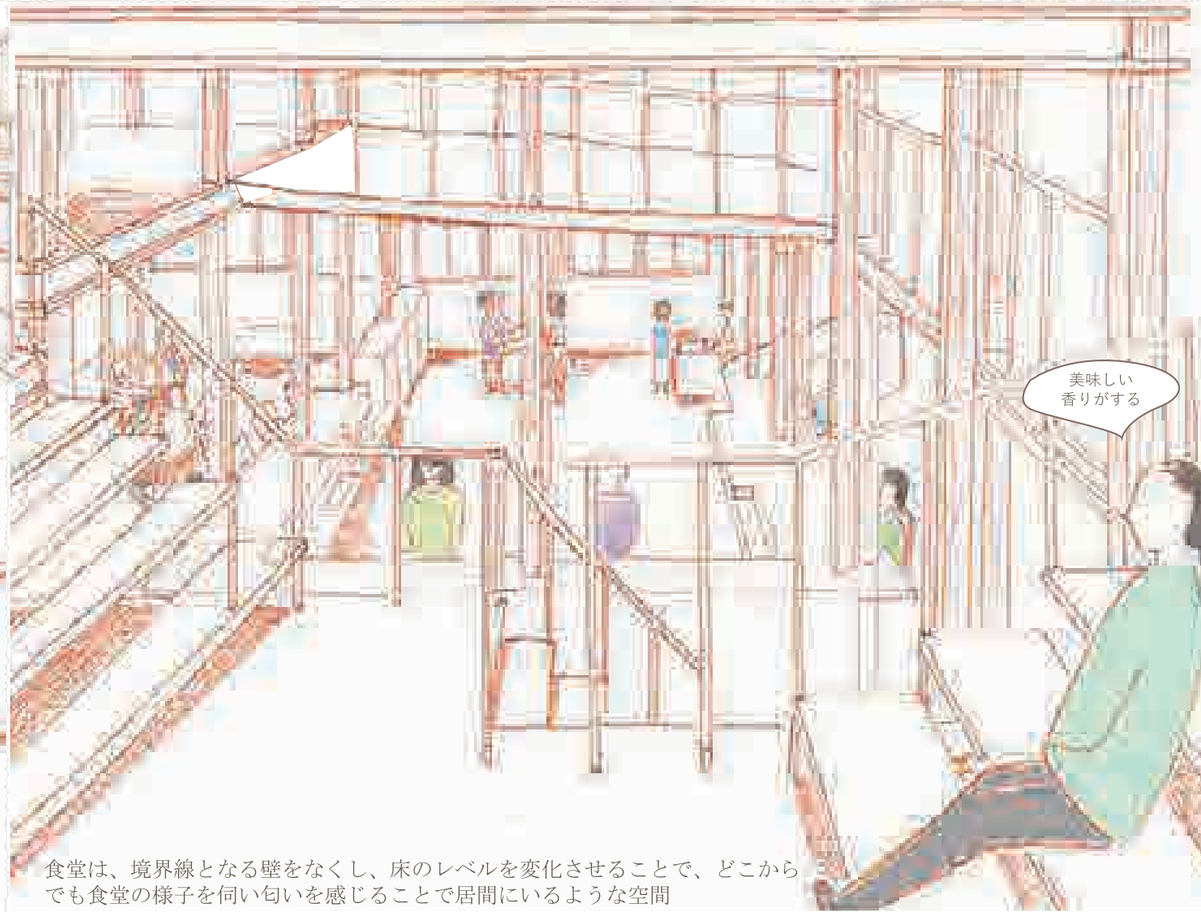
小学校に面した北側の縁側では子供がフラット立ち寄り、遊んで、ご飯を食べるきっかけとなるような場所

ダイニングは、豆型テーブルをみんなで囲んで食事するなどそれぞれが居心地が良い居場所を見つけられる空間

案内所はここに立ち寄った人が地域の人だから知っている情報、飲食店の方が宣伝を書き込み高見の案内所として機能する空間



エントランスは天井高を高くして解放感を出し、貸店舗では気軽に立ち寄れるように外側からも様子が見えるように



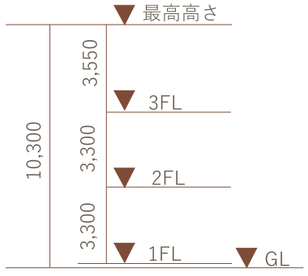
食堂は、境界線となる壁をなくし、床のレベルを変化させることで、どこからでも食堂の様子を伺い匂いを感じることで居間にいるような空間

エントランス
受付・事務
飲食店
広場
縁側
ロッカー
倉庫
ダイニング
座敷
+450
EV
食堂・料理教室
wc
wc
授乳室
ダイニング
学習
ワークスペース
wc
wc
EV
遊ぶスペース
（低学年）
遊ぶスペース
（高学年）
案内所
27,000
3,400
16,000
23,000
33,000
57,000

断面パース

動線

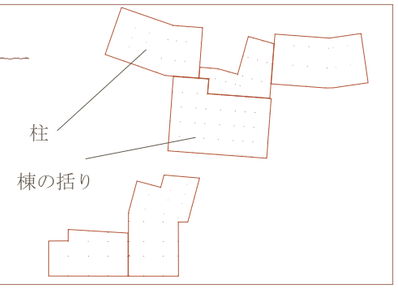
配置図建平面図１FL　1/150



立面図　1/150

構造強化のため６分棟

形状が複雑な木造建築であるため北側を４棟に分棟、南側を２棟に分棟して設計することで強度を高める

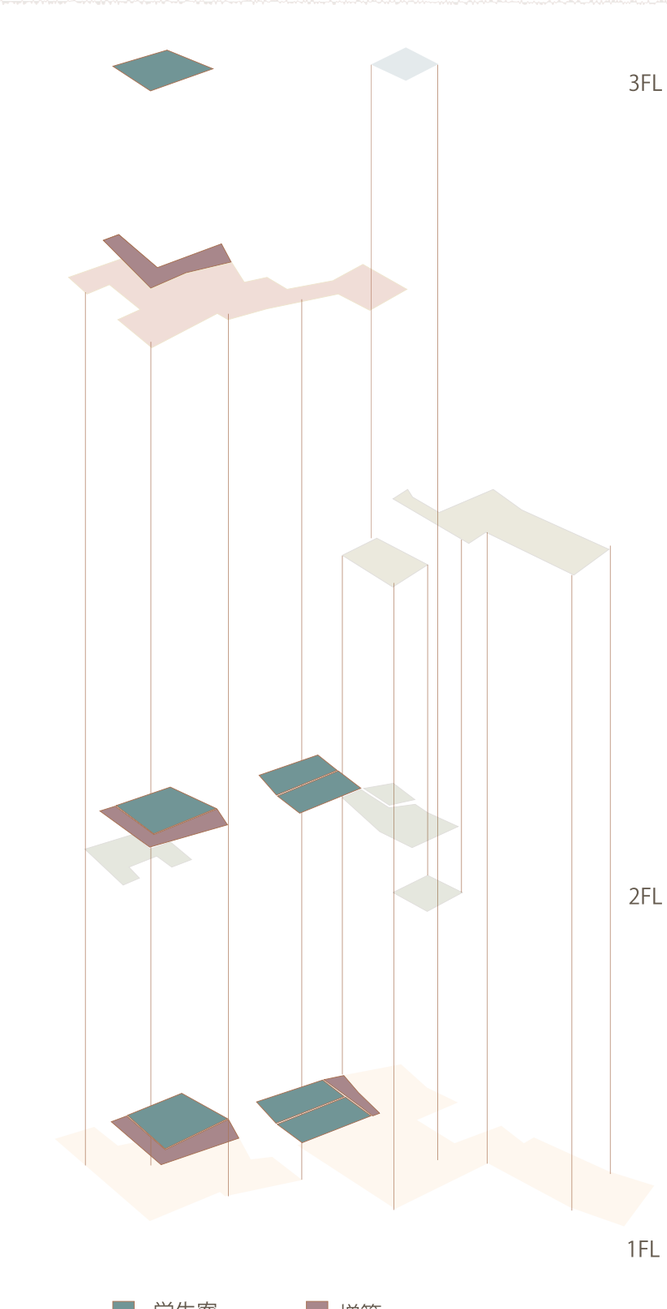


12 高見学区の未来

永続的な運営のためにと継続的な利用をしてもらえるよう、近隣の公園で出張してイベント開催での宣伝を行います。また、家持ちの割合が高い地区の特徴を活かして、有志で居住スペースの庭で食材を育てる場所として利用しすることで利用しながら食材を届ける運営側としても参加します。

現在アパートと住宅になっている３棟を近隣の学生が利用する学生寮に変化させ、学生寮と高見の居間の間には屋外のフリースペースを設け、会話をしたり、くつろぐスペース空間になります。

高見の居間では、地元の人が参加するショップスペースを設け使い方も変容させます。

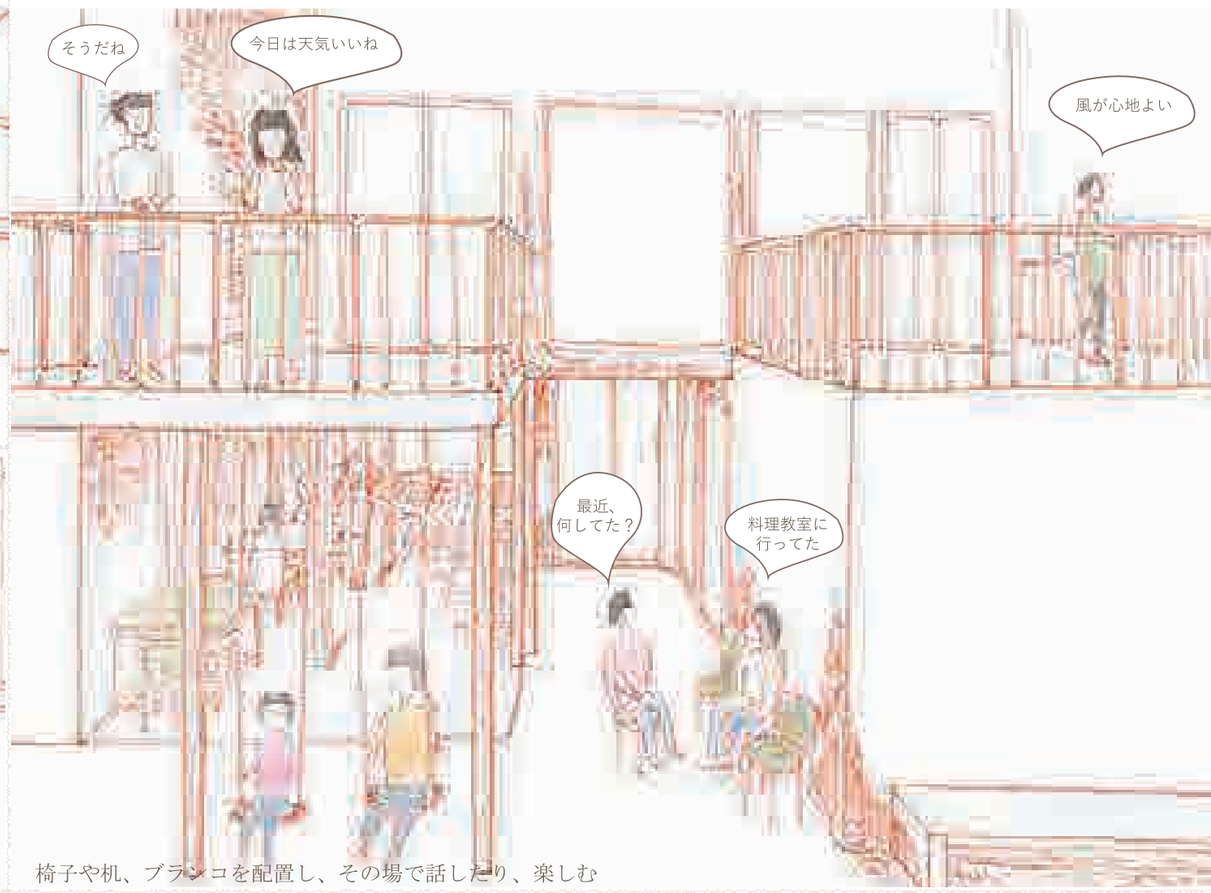


学生寮と高見の居間が繋がり、学生と地域の人の交流が増える

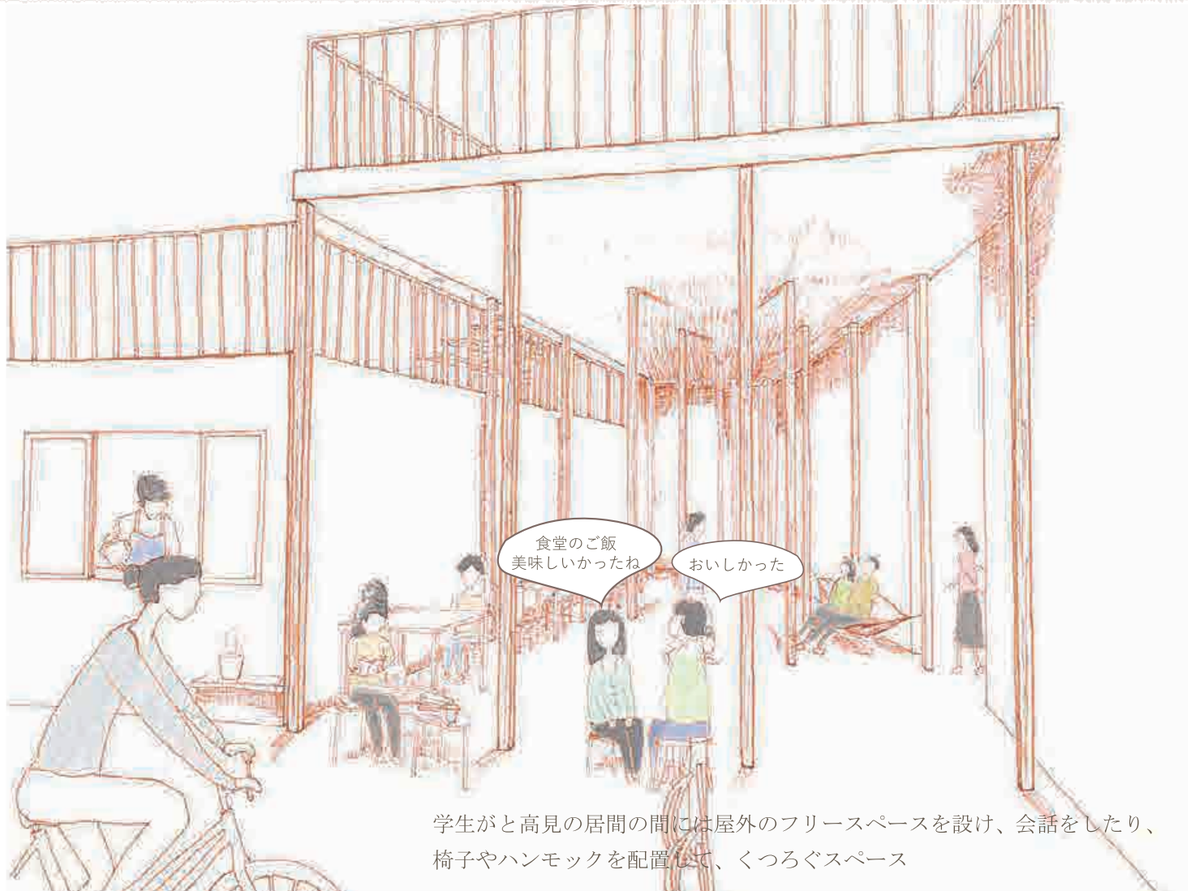
レベルの違う空間により互いに交わる

近隣の公園で食堂や駅周辺の飲食店が出張して参加するマルシェ開催

居住の庭を食材を育てる場所として借りる



椅子や机、ブランコを配置し、その場で話したり、楽しむ



学生がと高見の居間の間には屋外のフリースペースを設け、会話をしたり、椅子やハンモックを配置して、くつろぐスペース